

＜今日の説教のポイント 出エジプト記2章11～25節＞

話の展開の速さに注目。モーセの殺人の良し悪しが問題なのではない。

1 モーセが恐れたことより、その結果、生じたことが大事。

話がどんどん進む箇所です。時間は一気に進み、成人となったモーセが「同胞であるヘブライ人」(11)をかばってエジプト人を殺します。自分がヘブライ人だと知っていることが前提となっています。さらに、助けたつもののヘブライ人から恐れられ、ファラオの耳にも入り、エジプトから逃げ出します。モーセの殺人が気になりますが、この早い話の展開の中ではそれが主要問題なのではありません。その結果何が起こって行ったかの中で、それも考えなければなりません。

2 モーセがたどり着いたミディアン地方が持つ意味とは？

モーセが逃げてたどり着いた地ミディアンで大事なことは、そこはエジプトではなく、モーセが「主」と出会う地だということです(3章)。「主」は出エジプト記では3章4,5節で初めて出て来るヘブル語「ヤーウエ」の訳で、一般的な意味で「神」と訳されたヘブル語「エロヒーム」(1:17-21、2:23-25)とは違う、唯一の神様を指す語です。モーセがそこで出会い、世話になることになる人物レウエル(18、別名エトロ 3:1)がその地の祭司であったことにも目を留めておかねばなりません。後に、エジプトから脱出することのできたモーセたちイスラエル人の所を訪れ、「主」に感謝する礼拝を捧げるからです(18章)。

3 茫然自失の中に置かれた時が、モーセの再生の始まりの時だった！

モーセがミディアンの地に着いたとき、彼はエジプト人だと思われていました(19)。しかし、この時、モーセ自身はエジプト人からもヘブライ人からも逃げて来たところであり、自分の生きる意味を見失ったような状態だったでしょう。その中で、モーセは主と出会い、主から生きる意味を与えられるのです(3章)。聖書は、それはエジプトにいるイスラエル人の苦しみがますます大きくなり、神様への呻き、助けを求める叫び声が届いた時であった、と記しているのです(23-25)。モーセの、自分で考えて自分が生きたいように生きる人生ではなく、「主なる神様」から託された生き方に取り組んで行く人生がここから始まったのです。それは私たちも同じです。この後の話の展開が楽しみです。